

中山間アユ漁場の地域貢献機能に関する評価技術の開発

メタデータ	言語: Japanese
	出版者: 水産総合研究センター
	公開日: 2024-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://fra.repo.nii.ac.jp/records/2010179

This work is licensed under a Creative Commons Attribution 4.0 International License.



中山間アユ漁場の地域貢献機能に関する評価技術の開発

中央水産研究所 内水面研究部
水産経済部

研究の背景・目的

- 1. 中山間地域の多くの河川では、海からのアユ稚魚の遡上がダムにより阻害されるため、内水面漁業協同組合の行う有償の種苗放流により、アユの生息が辛うじて維持されています。
- 2. アユのいる日本本来の河川生態系は、漁業や遊漁を通し、中山間地域の地場産業に経済波及効果をもたらし、地域文化の共有にも力を発揮してきました。しかし、それらアユのもたらす恩恵の社会的価値は評価されていません。
- 3. 本課題は、アユのいる河川生態系が持つ客観的な価値を提示するため、アユのもたらす様々な恩恵を明らかにし、その経済価値を評価する手法を開発することを目的としています。

研究成果

- 1. アユが生息する川では、川底に生える藻類の大量増殖が摂餌により抑制されるため（図1）、良好な河川景観が維持されます。川底を綺麗に保つその効果は、アユの生息密度が4尾/m²程度でほぼ最大に達することを飼育実験から明らかにしました（図2）。それにより、国民の期待する清澄な川の景観を維持するためには、どの程度のアユが生息していれば良いのか予測できるようになりました。
- 2. アンケート調査の結果、国民のアユへの嗜好は高く、清澄な川に生息しているイメージを持っていることが分かりました（図3）。また、アユが身近な川に棲んでいるという生活環境に対する評価額を調査した結果、年間の環境価値は一人当たり平均約6万円と試算されました（表1）。

波及効果

- ・アユが地域にもたらす恩恵の経済価値を提示できるようになりました。さらに総合的な経済評価を行うことにより、アユ漁場を維持することに対する客観的な判断基準を提示できるものと期待されます。

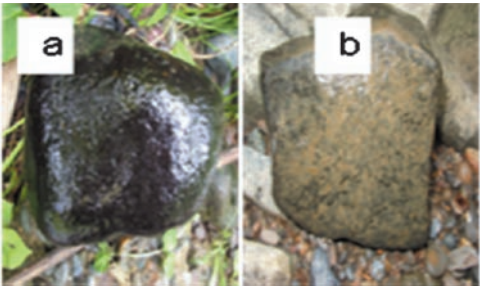


図1. アユが摂餌していた石 (a) と摂餌されていない川底の石 (b)

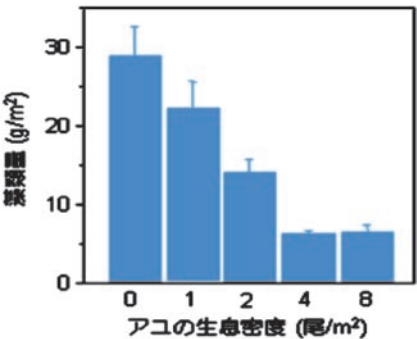


図2. アユの生息密度と藻類量の関係。人工河川にアユを放流してから2週間目の藻類量を示す。

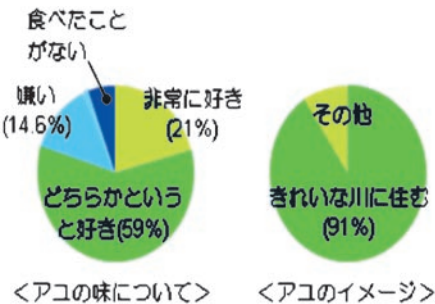


図3. アユに対するイメージについてのアンケート調査結果。北海道及び沖縄を除く1000名を対象にアンケートした結果を示す。

表1. アユのいる環境に対する評価額。
北海道及び沖縄を除く1000名を対象に、家賃の差が月額いくらまでなら家賃が高くともアユのいる川の近くに住宅を選ぶかアンケート調査した結果を示す。

	1人当たりの評価額	
	月額(円)	年額(円)
平均値	4,870	58,440
中央値	3,000	36,000